

公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム

公民館を拠点にした 高齢化社会克服プロジェクト

～地域ぐるみで健康寿命を延ばし、
介護保険料を減らそう！～

愛媛県新居浜市 関 福生

地域の現況（新居浜市泉川地区）



合言葉は “自分達のまちは、自分達のカで”

特色ある取組みは

人口 11,600人

おもしろい活動は…

学校支援地域本部事業

放課後子ども教室

● 国道バイパスアダプトプログラム

徐々に新しいまちづくりが広がる！

泉川まちづくり協議会とは

自主的な地域課題解決型のネットワーク組織

平成19年度 学びあい支えあい地域活性化支援事業

- ・地域福祉部会 福祉のネットワークづくり
- ・健康づくり部会 地域スポーツと食育
- ・安全安心部会 防災と安全マップづくり
- ・環境美化部会 道路のアダプト・花いっぱい運動
- ・子どもの育ちを支える部会 子どもの体験活動
- ・生涯学習部会 泉川ふるさと塾
- ・総務部会 部会相互の連絡調整
- ・グループサークル部会 公民館まつり

公民館の方向性は

みんなで
地域課題を
解決しよう

- 何が地域の課題か？
- 地域福祉・環境・防災・子育て支援etc

みんなで
地域の誇り
を高めよう

- 何が地域の強みか？
- 歴史や文化・イベント・観光資源・人間etc

この事業にどうして取組んだか

- 1 地域主導型公民館の方向性を明確化
(地域課題解決路線)
- 2 ネットワーク拠点、公民館の存在意義
(自前主義から脱却)
- 3 地域福祉と社会教育の連携強化
(地域の絆づくり)

コミュニティ再生と公民館の復権

解決すべき地域課題は何か

1. 拡大する介護保険料、国民健康保険料に
どう歯止めをかけるか。

全国で十指に入る高額負担

2. 地域福祉を推進する団体、機関の
ネットワークをどう構築するか。
タテ割り意識が強く、繋がらない。

プログラムの内容

当プログラムは3か年継続を目途に

- ①地域の現状把握、分析を行い、
- ②取り組むべき課題を明確化、
- ③推進のためのネットワーク組織を形成
- ④先進事例のエッセンスを学ぶ
- ⑤学習で意識変容を図り、実践活動へ促す。

大きな刺激は、慶應義塾大学との連携

大学との連携は、突然の出来事

★きっかけは、松山市久米公民館との交流

➡安全安心マップづくり（NPOとの縁）

申請書提出前日にタイアップが成立

慶應義塾大学（伊香賀 俊治教授）の研究G

高知県梶原町で、昨年度から取り組んでいた
健康寿命と住宅環境の関連について実証研究

比較対象できるフィールドとして連携することに。

まさに“卒啄同時”そして“縁”の大切さ

Win & Winの関係性が成立した。

大学との連携で見えてきたものは

- 評価には実証的データの裏付けが必要
- 手間を十分にかける。長期的なスパンで
- 豊富なネットワークを活かす。

具体的な協働の分野

- ① 住民へのアンケート調査
- ② 児童生徒と一緒にになった散歩道選定WS
- ③ 健康と運動に関する講演会の開催
- ④ S. C. が子どもに与える影響調査

マーケティングリサーチができない状態では闇夜に鉄砲では？

現状
分析

できるだけ見える化し、
活動結果を共有する。

評価

長い道のり
繰返し

学習

私達の手法

先進事例に真似ること
とは恥ずかしくない。

目標

議論して目的を
明確化し、志を
高める。

実践

やらない理由を考え
ず、やる方法を探る。

熟議

実践の前段階として

- **地域住民対象のアンケート調査を実施**
マーケティングリサーチ
- **ワークショップを実施**
熟議で目標を明確化・目標設定
- **先進の事例から学ぶ。**
「井の中の蛙から脱却」 「良いことは模倣」

実践的三段論法

目的の明確化→方法を探り→実践に

実践する内容の柱

1. 健康づくり

Exウォーク(一日一万歩運動)普及
国道バイパス他を“元気の出る道”に指定
食育と軽スポーツ普及

2. 生きがいづくり

ボランティア活動・学校支援地域本部
幸せな高齢期を送るため「いきいき年輪塾」の開設

3. 居場所づくり

アウトリーチ方式 自治会館での集いの場
月に一度集まることで安否確認

4. 話し相手づくり

傾聴ボランティアの養成と活躍の場

住民への情報周知手法

1. 多様な機会での熟議の場づくり
2. アンケート結果の周知
3. 年度ごとの活動レポート
4. 年間活動報告会

目標との差・反省・今後の夢語り

プログラムで期待される成果・効果

- (1) 地域で高齢者を支える風土づくり
- (2) 民生費の節約
- (3) 縦割り行政の是正
- (4) 公民館のコーディネート機能向上

事業の評価 エビデンスって？

1. これまで事業に参加していなかった人材が新たに関与したか。(企画立案者も)
2. 学習の成果が実践活動に結びつき、新しいまちづくり活動が生まれたか。
3. 住民・特に高齢者の健康意識が変容し、日常行動が変化したか。(アンケート比較)
4. 最終的には、行政コスト(民生費)の削減にどれだけ功を奏したか数字で検証する。

成果の指標になるものは・・・

1. アンケート結果（意識の変容） 5年後に
2. 傾聴ボランティア養成講座修了者 まず15名
3. 老人会の加入者数の増大（これは副産物）
4. 公民館利用者の増大 籠城から野戦へ
5. 介護保険・国民健康保険の利用料減額

△10%を最終目標に

この事業はどう発展するか…

1. 幸せな老後を送る上で、本当に重要となる因子を見極める。

①人間関係、②体力づくり ③医療制度

④介護サービス ⑤安全安心 ⑥その他…

2. 国道バイパス他“元気の出る道”を活かした
健康づくりプログラムの開発

3. 生命を楽しむ地域福祉ネットワークづくり

10年後、公民館はどうなるの？

存在意義は向上か低下か？

進化するの、退化するの？

自らが殻を打ち破るのは今、
この事業がターニングポイント！

真の“公民館海援隊”結成を！